

●授業者反省・質疑応答（6－2岸本先生より）

・6年生としては研究仮設をしっかりとて、手立てを2つ考えて指導案に書いた。目的意識を持たせること、ロイロノートや思考ツールの活用を意識した授業づくりを意識した。らせん型のつながるのある計画を立て、今後活かしていきたい。この力をのばすにはという方策について考えながら、授業に当たった。子どもの声を活かし、あえて教師からの提案はしないように意識しながら授業を進めていった。

・今日の授業では目的意識をもち、やることは個々がしっかりわかっていたと思う。

課題としては①時間設定や時間配分②話し合い時のグループの固定化が気になった（いろいろな人との交流が欲しかった）

質問：野末 指導案3番 大人になって～の部分、どのくらいのレベルで教師が考えていたのか知りたい。しっかりした目標を掲げてほしいのか、ふんわりしたもので良いのか。

岸本：また固定した思いをもっている児童は少ないと思う。将来の自分に繋げるために、ということをお大切に、ざっくりとした組み立てにした。

●研究協議（A・B・Cの各グループごとに）

グループA

- ・やる気を出していたのか？
- ・興味がない人は言われてやっている。
- ・具体的な夢や目標がない人は、どんな大人になりたいかで進めていた。
- ・一人一人やっていることが違うし、これが必要なのかということもあった。
- ・自己分析をしている時間に感じた。
- ・次の時間は宣言？
- ・本当にやりたいために必要な能力なのか。
- ・生活での判断力と仕事での判断力は別、それを話し合えていなかった。
- ・ゴールが見えていない。
- ・思考ツールでゴールのつながりがない、何のための○○力なのか切れてしまっている。
- ・ふんわりとした話し合いに感じた。
- ・今の自分と未来の自分に距離がある。現実的に考えるとわからなくなっているのでゴールを近くに設定してもよかったと思った。

グループB

- ・掲示物
- ・全体の流れがわかるので、自分たちが何をやるかわかりやすく、進めやすいと思う。
- ・Yチャート（思考ツール）
- ・チャートは児童が整理しやすく、使いやすいと思った。
- ・必要な力を選ぶ難しさ 具体的でないといけない部分がある
- ・未来を見据えすぎると難しい。中学校でできることなど
- ・友達には、相手の良いところを出してもらおう。それをもとに職業を探す方法

- ・その他
- ・最終的なゴールは何か。
- ・自分のなりたい職業がある人とない人とで、思考ツールを選ぶとよいのではないか。
(Yチャート・大谷選手のシートなど)

グループC

〇〇力が多様であり、課題に対する的確なアドバイスをすることが難しかったのではないか。

〇〇力に対する知識を深掘りしたうえで課題やアドバイスを共有するとよいのではないか。

話し合いのレベルを合わせるために、将来の夢（仕事等）について、ある程度必要な知識を身に付けておくとういふか。調べる時間を充実させる。職業の表の面だけではなく、見えない大変な部分にフォーカスして、気づきを得られるとういふか。

話し合ったアドバイスが適切かどうか、子どもが自分で判断することが難しい。「ずっと我慢する」と記入している児童がおり、今後考えの幅が狭まってしまふのではないか。思い込んでしまふ児童がいるかも。課題だけでなく、自分の良い面について伸ばすための方策を考えてもよかつた。

課題設定について、児童の言葉をうまく引き出しながら進めていたため、子どもたち自身が進めているとういふ意識をもたせながらできていた。

●御講義・指導講評（文部科学省 若村健一様）

- ・子供たちのつぶやきや表情を見て、その反応から児童は何を学んだかを読み取りたい。

目の前の児童はどういう方向に向かうのかを見取りながら、授業を組み立てていくことが大切。今日の先生の行動はとても良かつた。

これからの自己の生き方を考える・・・6年生のキャリア教育

現在の様子から、将来の自己の生き方に繋げて考えさせることが大切

- ・夢を持つことが大切なのではないか？→児童からすればそれは遠い未来、その職業が未来にはあるかどうか分からない。

- ・小学校でそこまで求めていく必要があるか？本単元ではどうすればよかつたか。

社会で求められていること・・・must（様々なひとに意見を聞くこと）

価値観、興味、好きなこと・・・will（やりたい、なりたい）

自分が何ができるか・・・can（できること）

☆今日の授業では・・・

○単元の組み立てに3つの視点が入っていて良かつた。

△自分に何ができるか？の視点をもっと強化しても良かつた。

働くとは？？とういふイメージをぼんやりとでも持たせることが必要。

いろいろな人の話を聞きながらいろいろなイメージを持ち、では自分だったらどうする？

これからの自分に必要なものは？と考えさせると良い。

解決について・・・視点①明確な目標がもてるか 視点②解決したかどうかを検証し次につなげていくと良い。

探求課題→何について学ぶか（探求する対象をはっきりさせることが大事）

今回の授業での探求課題は「自分」だった。6年生にとって近い自己の将来は、まずは中学生になる姿。そこに向けてどんなイメージや意識を持った方が自己をよりよく見つめられるのではないか。地域の様子や町探検などを通して、実社会で働く人の姿から浮かぶイメージをもたせることも

大切。

指導案では、丁寧に資質能力の部分を細かく書いていて良かった。

探求課題と評価規準を結びつけることが大切。

「自分自身のよさへの気づきと自分に合った将来への展望」という概念的な知識をゴールの設定としていくと良いのではないか。

自分の中で知識や経験がつながって、文脈をもってかたることのできる知識＝概念である。

☆今回の授業で良かった点

①考えやすくするための環境づくり、自己選択できる場や活動の設定、思考ツールの活用→自分たちで考えようと思わせる環境づくり

児童はYチャートを動かし、自分なりに整理していた。真ん中に書いたことをより具体的に書き、イメージを広げていた。課題の把握はよくできていたと思う。

だからこそ今日は解決策を考える、のみの活動でよかったのではないか。

②自分の不安や心配事を素直に友達に相談していた。クラスの中で信頼関係がしっかりできている証だと感じた。

交流で友達が言ったことを意味づけてあげたり、アドバイスしていたりする姿が見られて良かった。もっとこの時間を増やしてもよかったのではないか。教師が友達への情報発信や意見交換がある場で、子どもの学びの情報を捉え、子どもに返すことができている良かった。

いまできるできないの判断規準は何だったのか？というの疑問だった。

今必要な判断だったのか。

座標軸はどうだったか？自分の成長や現在の姿に合わせてかけている子もいたが少数だった。

順序づけることが大事なので、動かせる付箋を活用したり、ロイロノートに書かせたりすると考えに合わせて整理しやすかったか。

☆今後に向けて

ずっと我慢をする、という児童からの意見。どうすれば「それは実際には無理」と気づくか？やってみる、試すことが大切。→やってみて実感する、まわりからフィードバックをもらう、そしてもう1度やってみると児童は気づく。

個別の知識をつなげる整理・分析の学習活動

思考ツールを活用することにより気づきや発見の蓄積や共有をして、個の学びが深まる。

曼荼羅チャートを使って・・・真ん中になりたい自分や夢を書き、周りに現在の自分ができることを書き込む。書き直せるので便利。子供たちは思考を具体化することで、考えがブラッシュアップしたり、整理することができる。

探求課題の設定や活用を大切に。自分自身の良さに気づき、よりよい生き方を考え、将来への展望をもてる子供たちを育てていけるようにしましょう。卒業間近の忙しい中の授業提供、ありがとうございました。